

# 畳んで広がる舟の世界

近畿の底ぢから

バタフライカヤックス(兵庫)

登山、スキー、サイクリング……。アウトドア愛好者は多種多様だ。だが存分に楽しんだあとに共通している頭痛の種が、道具の収納だ。登山のテントや寝袋なら押し入れになんとか。このころは高級自転車や車を部屋にしまふ好事家もいるが、カヌー、カヤックとなると、都会のマンション暮らしには絶望的……。と、おもっていたら、救世主がいた。

水族館や野球場がある兵庫。カヤックビルダーの高嶋正裕さん(45)の工房だ。ここから近い住宅地に「バタフライカヤックス」がある。ほとんどのカヤックを送り出し



高嶋正裕さんが手にしているのがキャリアバッグにした状態。上のカヤックは川向き、下は海向き。操作性や耐久性にも独自技術の数を注ぎ、いずれも兵庫姫路市西庄甲

## キャリアバッグに変身 冒険家も愛用

ている。すべて折り畳み式のカヤックだ。

ところで、カヤックとカヌーの違いをご存じだろうか。カヤックは両端にプレードがある漕ぎ漕ぐ。それと、人が着座するコックピット部分のほかにデッキが閉じているのが特徴。激流や波風に強い。

高嶋さんが手がけるのは川、海、島渡りと用途ごとのカヤック。約35本のFRP(繊維強化プラスチック)製の骨組みと特殊加工・圧着した船体布などでできている。全長約5m。このままだ

と屋外に置くしかないが、分解して畳み、コックピットを活用するとキャリアバッグに変身。このアイデアが受けた。重さ約20kgだが、転がして運べ、車載可。ペラペラ収納もできる。慣れると、10分ほどで舟に組み立てられる。

高嶋さんは姫路市出身。静岡大で半導体を研究した。畑違いのカヤックづくりをはじめたのは、この学生時代。舟で自由に釣りがしたいとふと思ったのがきっかけだ。廃材を集め、ホームセンターで部品を買って製作。費用約5千円。「祖父が宮大工でした。この血が騒いだのか、これでのめり込んでしまった」。大学を出た後はオーストラリアを放浪。冒険家植村直己さんの本に触発された。長期の貧乏旅だったが、果樹もぎのアルバイトの合間、自作カヤックで川を下った。持ち運び可能な組み立てカヤックが、自由な旅を支えてくれた。



カヤックの骨組みをつくる高嶋さん。骨組みはFRP製が中心

バタフライカヤックス シーカヤック、リバーカヤックなど常時数艇を展示している。値段は30万円前後が多い。組み立て、分解の実演もする。費用5千円(税込み)で姫路市近郊の海や揖保川で試乗ができる。製作するカヤックにはクルーソーの愛称。無人島に漂着したロビンソン・クルーソーにあやかった。

高嶋さんの工房。カヤックの骨組みはFRP製が中心。畳むと広がる世界がある。(加来誠)